

巻頭言

南山学園理事長 ハンス ユーゲン・マルクス

南山大学人文学部キリスト教学科とは別組織である在名古屋教皇庁認可神学部は1984年に誕生し、本年度25周年を迎えました。教皇庁教育省に設置を申請した時の意図は、南山大学の学位に加えて教会法上の学士、修士、博士をも取得できる組織を確立する一方、当時の文学部神学科（現：人文学部キリスト教学科）をより柔軟に運営できる枠組みを整備しようということでした。その意図は見事にかなえられたと言えましょう。

教皇庁認可神学部が立ちあがったとき、神学科在籍者のうちには一般学生もいましたが少数で、圧倒的多数は聖職を目指す神学生でした。その後、神学生が減少する一方、一般学生が急増しました。当然キリスト教に関心をもってはいるが信者であるとは限りません。そういうこともあって、2000年の学部学科改組にあたって、神学科をキリスト教学科に名称変更し、一般学生にとってより適正なカリキュラムに切り替えました。しかし依然として教皇庁認可神学部が並置されているので、聖職者養成や教会法上の学位取得も可能です。

振り返ってみますと、ローマのグレゴリアナ大学で博士号を取得して日本に戻ったとき、当時、神言神学院の学事係を務めていた三好迪先生は文部省（現：文部科学省）に対して大学院神学専攻の設置申請の準備中で、私に教会法上の修士、博士号が取れる組織作りのための協力が依頼されました。当初は既存の教皇庁立大学神学部の分校としての組織を考えていましたし、神言会関係の他の教皇庁認可神学部をみても、皆、既存の大学の分校という位置づけでした。ところが、グレゴリアナ大学の学長を務めておられたカリエール先生が国際カトリック大学連盟の事務総長として南山に来られたときに、グレゴリアナ大学の分校になる可能性をたずねたところ、南山大学は著名な宗教文化研究所を有

する組織だから、分校ではなく自主独立の学部を考えるのが適切だ、との助言を頂き、その方向に向けて進み始めました。

打ち合わせのため教皇庁を訪れたときには、カリエール先生から教育省長官 枢機卿までも紹介していただき、スムーズにスタートしました。しかし開設は簡単ではなく、学則が認定されるまでには6年もかかりました。キリスト教徒の少ない日本国内において上智大学に加えての神学部設置認可を得るための重要な条件の一つは、宗教文化研究所との協力で、第二バチカン公会議以来教会にとって大きな課題である諸宗教の神学を特徴にすることでした。これも大変成功していると言えましょう。また、この『南山神学』も神学部設置認可申請中に、キリスト教徒の少ない国できちんと研究発表ができるような機関誌として機能するようにとの意図で、神学部構想の一環として創刊したものです。毎号充実した研究発表が掲載されていて嬉しく思っています。

初代学部長を7年間務めさせていただいた後、全学的な仕事を任されて、不本意ながら学部充実のために十分な働きはできませんでしたが、幸い後に続く人たちのご努力で現在の確固たる組織となりました。将来も大いに期待できると確信しています。